

最近の京都経済の動き (2023年夏)

【目次】

I. 概況	_____	p. 1
II. 経済動向	_____	p. 3
1. 需要動向	(1)個人消費	
	①大型小売店販売（百貨店、スーパー）	
	②コンビニエンスストア販売	
	③家電大型専門店販売	
	④主要専門店街売上高	
	⑤自動車販売	
	(2)観光動向	
	(3)住宅投資	
	(4)設備投資、IT投資、研究開発費	
	(5)公共投資	
2. その他の動向	(1)雇用・所得情勢	
	(2)企業倒産	
III. 産業動向	_____	p.13
1. 企業の生産活動等	(1)機械等関連業界	
	(2)和装繊維業界	
2. 京都の企業経営者の景況感		
3. 京都企業における売上高、および経常利益の推移（実数調査結果）		
IV. 京都の主要経済指標	_____	p.18

京都銀行
経営企画部

(サステナビリティ経営推進部)

I. 概況

- 最近の京都経済は、経済活動の正常化とともに、個人消費では幅広く改善の動きが広がり概ねコロナ禍前の水準に戻りつつある。また、企業の生産活動は持ち直し基調で、経営者の景況感も着実に回復が進んでいる。
- まず、個人消費は、大型小売店販売は外出関連需要やインバウンド需要の高まりにより、客足が回復し、衣料品・身の周り品が伸長。コンビニエンスストアはコロナ前の水準で推移している一方、家電大型専門店販売はこのところは前年割れに転じて、持ち直しの動きは一服している。自動車販売は供給制約が徐々に改善しており、持ち直しているものの、コロナ前と比較すると、依然低水準となっている。
- 京都観光は、国内外の観光客が回復基調で賑わいを取り戻し、コロナ前の水準に迫る勢いで大幅に改善している。
住宅投資は、資材価格・物流費の高騰の影響から、需要がやや低下しており、月によるばらつきが大きく、一進一退で推移。分譲マンション販売は持ち直しの動きに一服感がみられる。
企業の設備投資は、2022年度(実績見込み)は前年度比で3年ぶりの増額となった。2023年度計画は2年連続の増額計画となっている。
公共投資は、引き続き、底堅く推移している。
- こうした中であって、企業の生産活動は、業務用機械・電気機械が好調を持続しているが、電子部品・デバイスが弱めの動きが続いている。業種によるばらつきはあるが、全体としては緩やかに持ち直している。企業マインド(景況感)は、直近5月調査では、製造業、非製造業ともに大幅に改善しており、コロナ禍前の水準まで持ち直した。
- この間、雇用・所得情勢は、有効求人倍率は1倍台で横ばいで推移している。求職者数は減少傾向で推移するも、依然として高水準で先行きへの懸念が残っている。一方で、一部業種では人手不足感が増している。現金給与総額は、持ち直し基調を維持。また企業倒産は、件数・金額ともに、足もとでは減少しており小口傾向が続いている。
- 以上のように、京都経済は、経済活動の正常化や訪日観光客の増加などを背景に幅広く回復が進み、全体として持ち直している。足元では回復が進む一方で、世界経済の減速懸念、人手不足や賃金動向を含めた雇用問題、一段の価格転嫁など課題は多く、先行きには注視していく必要がある。

《主要各項目の概況（天気図）》

※方向は、概ね3か月前に比べて

- ↗ : 改善
→ : 変化なし
↘ : 悪化

※水準は

- ☀️ : 良い
☀️/☁️ : やや良い
☁️ : 普通(良くも悪くもない)
☔️/☁️ : やや悪い
☔️ : 悪い

	方向	水準	コメント
総合判断	↗	☁️	経済正常化に伴い、個人消費では幅広く改善の動きが広がっている。企業部門は、製造業・非製造業ともに改善でコロナ禍前の水準まで持ち直し。雇用・所得環境は改善基調が続く。
個人消費	↗	☀️/☁️	全体的に幅広く回復が進み、概ねコロナ禍前の水準に戻りつつある。
大型小売店販売	↗	☁️	外出関連・インバウンド需要の高まりを受けて、客足が回復し、衣料品・身の回り品が伸長。水準についても、概ねコロナ禍前の水準で推移している。
コンビニエンスストア販売	↗	☀️	コロナ前の水準で推移している。
家電大型専門店販売	↘	☀️	このところは前年割れに転じて、持ち直しの動きは一服。
自動車販売	↗	☁️	乗用車・軽自動車ともに供給制約が徐々に改善しており、持ち直している。ただし、コロナ前と比較すると、依然低水準となっている。
観光動向	↗	☀️/☁️	京都市内主要ホテルでは、国内外の観光客が回復基調で賑わいを取り戻し、コロナ前の水準に迫る勢い。
住宅投資	→	☁️	新設住宅着工は月によるばらつきが大きい。分譲マンション販売は持ち直しの動きに一服感。
設備投資	↗	☁️	2022年度実績見込みは前年度比で3年ぶりの増額となっている。2023年度計画は2年連続の増額計画。
公共投資	→	☁️	引き続き底堅く推移している。
雇用情勢	→	☀️/☁️	有効求人倍率は1倍台で横ばいで推移している。所得面は、改善の動きが鈍化。一部で人手不足感が増している。
企業倒産	→	☀️/☁️	件数・負債額ともに、足もとでは減少傾向で、小口倒産が中心で、水準は抑制されている。
企業の生産活動	→	☁️	業種によるばらつきがあるが、全体としては基調は持ち直し。
京都の企業経営者の景況感(自社業況判断)	↗	☁️	5月調査では、全産業DIは13ポイント大幅改善で▲9とマイナス幅縮小。製造業・非製造業ともに改善し、コロナ禍前の水準まで持ち直し。

II. 経済動向

1. 需要動向

(1) 個人消費

～ 全体として、持ち直している ～

① 大型小売店販売（百貨店、スーパー）

～百貨店売上高は、衣料品・身の回り品が好調で堅調に推移。

スーパー売上高は、主力飲食料品が好調で持ち直している。

百貨店・スーパー合計では、着実に持ち直している。～

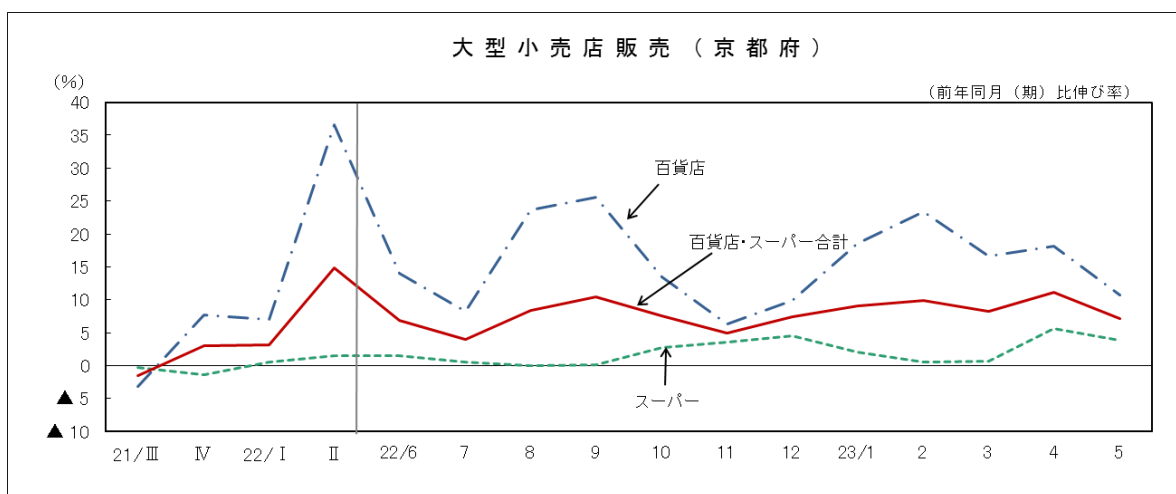
大型小売店販売の推移をみると、まず、**百貨店の売上高**（既存店ベース、4百貨店5店舗）は外出関連需要の高まりやインバウンド需要の回復により、衣料品や高額なブランド品などの身の回り品が好調に推移し20ヵ月連続で前年を上回った。

一方、**スーパー売上高**（既存店ベース）は、経済活動の正常化に伴い、主力の飲食料品や衣料品などが順調に推移している。直近5月まで9ヵ月連続で前年を上回り、持ち直している。

以上の結果、**百貨店+スーパーの合計売上高**（既存店ベース）で、経済活動の正常化に伴う外出機会の増加、インバウンド需要の回復により持ち直している。衣料品（3月；+14.0%、4月；+1.8%、5月；+9.3%）は持ち直しており、飲食料品（3月；+4.9%、4月；+2.2%、5月；+5.1%）は堅調に推移している。

<百貨店、スーパー 売上高推移> (既存店ベース 前年同月(期)比増減,%)

	22/ 7~9	10~12	23/1~3	23/3月	4月	5月
百貨店売上高	18.1	9.7	19.2	16.6	18.2	10.8
スーパー売上高	0.1	3.8	1.1	0.7	5.6	3.9
百貨店+スーパー	7.4	6.7	9.0	8.2	11.1	7.1



② コンビニエンスストア販売

～コロナ前の水準で推移している～

コンビニエンスストア販売額（全店ベース）は、5 ヶ月連続で前年を上回り、コロナ前の水準で堅調に推移している。

<コンビニエンスストア販売額推移（府内 1,051 店舗）>

	22/ 7～9	10～12	23/1～3	23/3 月	4 月	5 月
前年同期比(%)	4.8	▲0.1	5.6	8.0	4.3	7.8

③ 家電大型専門店販売

～持ち直しの動きは一服～

家電大型専門店販売額（全店ベース）は、巣ごもり特需の反動を冬物家電の需要増などによりカバーし、持ち直し基調で推移してきたものの、直近 3 ヶ月はマイナス基調で持ち直しの動きは一服している。

<家電大型専門店売上高推移（府内 53 店舗）>

	22/ 7～9	10～12	23/1～3	23/3 月	4 月	5 月
前年同期比(%)	▲1.3	1.8	▲2.7	▲7.8	▲0.0	▲4.6

④ 主要専門店街（ファッションビル）売上高

～京都駅周辺 2 施設の商況は、引き続き観光客が増加し、回復している～

京都駅周辺の主要専門店街（ファッションビル）の商況を見ると、前年 3 月 22 日まで発令されていたまん延防止等重点措置による反動増に加え、消費者の外出とインバウンド需要増加の影響により、4 月以降も好調に推移している。

京都駅周辺の A 専門店街では、2021 年 11 月から 19 ヶ月連続で前年を上回り、全業種で 2 桁増が続き、特に土産品が好調。足元ではコロナ前の水準近くまで回復している。

一方、同じ京都駅周辺の B 専門店街でも、観光客を含め幅広い層から来館者数が増加しており、コロナ前の 2019 年同月実績超えが続いている。

<主要専門店街（ファッションビル）売上高推移> (前年同月比増減,%)

	22/11 月	12 月	23/1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
京都駅周辺 A 専門店街	51.9	37.7	64.7	139.5	87.9	68.1	68.6
うちファッション衣料	2.8	5.5	10.6	30.2	17.0	17.3	6.3
うち土産品その他物販	60.1	38.6	66.5	150.8	94.2	69.6	77.4
京都駅周辺 B 専門店街	26.1	23.2	43.8	93.0	67.3	44.9	44.5
うちファッション衣料	7.4	8.7	13.8	48.2	17.1	11.6	4.6
うち土産品その他物販	12.7	11.4	19.1	51.8	57.0	39.6	38.3

⑤ 自動車販売

～乗用車、軽自動車ともに供給制約は緩和され、徐々に持ち直している～

乗用車については、半導体不足や部品供給停滞による影響は緩和され、コロナ前の水準に向け少しずつ持ち直している。

すなわち、普通車（2000cc超、高級車）は、年明け1月以降は5ヵ月連続で前年水準を上回って推移している。小型車（2000cc以下）は、4月に5ヵ月ぶりに前年比プラスに転じて以降は2ヵ月連続で前年を上回って推移している。

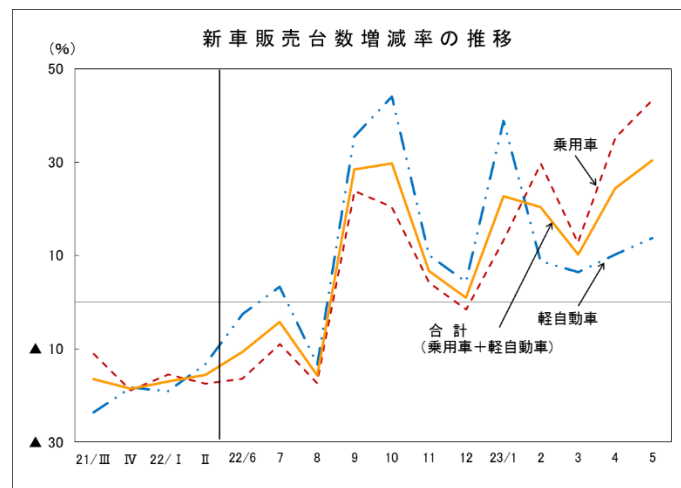
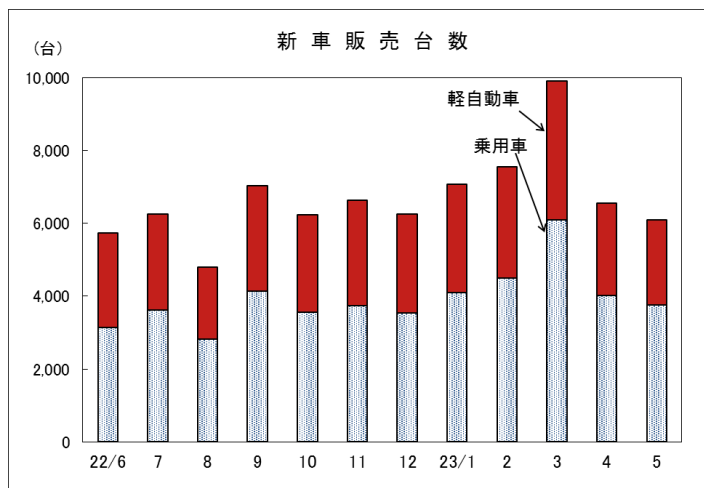
軽自動車については、2022年9月以降は前年比プラス水準で推移し、持ち直している。

新車販売全体（乗用車＋軽自動車）でみると、3月；前年比+10.2%、4月；同+24.4%、3月；同+30.4%と、昨年9月以降9ヵ月連続で前年水準を上回っている。

<自動車販売状況>

(前年同月(期)増減, %)

	22/7～9	10～12	23/1～3	23/3月	4月	5月
乗用車販売台数	▲ 1.4	6.9	17.5	12.7	35.3	43.4
うち 普通車	1.7	6.3	30.7	23.4	51.0	52.6
うち 小型車	▲ 6.7	7.9	▲ 2.7	▲ 4.8	10.6	26.5
軽自動車販売台数	7.7	16.9	15.4	6.5	10.2	13.7



(2) 観光動向

～京都市内主要ホテルでは、国内外の観光客が回復基調で着実に持ち直し、

コロナ前の水準に迫る勢い。～

観光動向を探る一指標として、**京都市内主要ホテル（14ホテル）の客室稼働率と宿泊者数**をみると、コロナ禍前の水準には届かないものの、国内外の観光客が増加し、大幅に回復している。

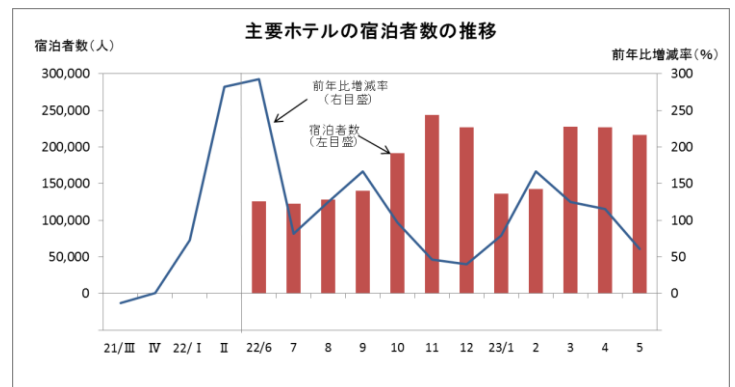
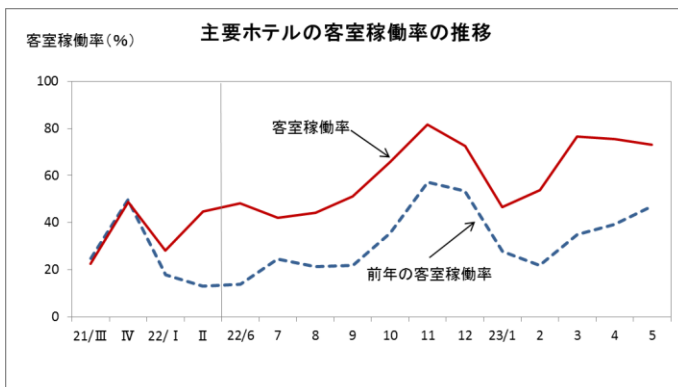
すなわち、**客室稼働率**は、桜の開花シーズンも好調で3月以降3ヵ月連続7割超で堅調に推移している。コロナ前の2019年5月88.0には届かないものの、前年比では大幅に改善している。

加えて、**宿泊者数**についても、依然として中国本土からの団体旅行の制限が続き、コロナ前の水準には依然として及ばないものの、日本人客、外国人客ともに急速に回復が続いている。

こうした中、京都市内で営業するホテルと旅館の2022年度の総施設数は7年ぶりに減少した。新型コロナの影響で中小規模の施設が撤退や廃業に追い込まれたことが要因とみられる。一方で、1軒当たりの客室数は増えており、総客室数は増加が続いている。また、コロナで一旦離れた従業員が戻ってないため人手不足が発生し、今後観光客がさらに増加していく中で一段と深刻化する恐れがある。

＜京都市内主要ホテル（14ホテル）の客室稼働率と宿泊者数＞ （単位；% 及び %ポイント）

	22/7～9	10～12	23/1～3	23/2月	3月	4月	5月
客室稼働率	45.7	73.3	58.7	53.9	76.4	75.4	73.0
前年比	23.1	24.7	30.5	32.0	41.6	36.2	25.9
宿泊者数(前年比)	120.9	55.7	119.6	166.7	125.2	115.1	61.0
うち外国人客	2,020.6	9,011.2	15,048.8	17,327.4	11,117.7	13,129.0	5,963.8



(3) 住宅投資

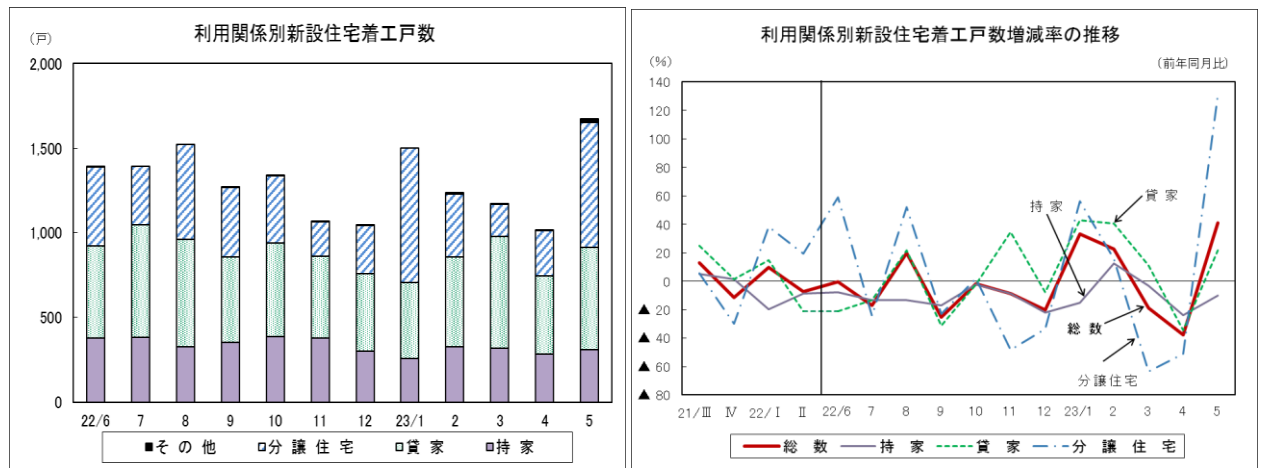
～新設住宅着工は月によるばらつきが大きく、一進一退で推移している。

分譲マンション販売は持ち直しの動きに一服感～

京都府内の**新設住宅着工戸数**は、月によるばらつきが大きく、一進一退で推移している。用途別では、**持家**は、300戸内外で2月を除くと前年割れ基調で弱めの動きが続く。

貸家は、月によるばらつきがあるが600戸超の月もあり、前年比プラス基調で堅調に推移している。一方、**分譲住宅**については、分譲マンションが月による振れ幅が大きい、分譲一戸建は200戸内外の横ばい圏内で推移している。全体でも月によるばらつきが大きく、一進一退で推移している。

引き続き、建設資材価格の高騰による不動産価格の上昇が長期化することにより、今後の住宅購入意欲の低下が懸念される。



新設住宅着工

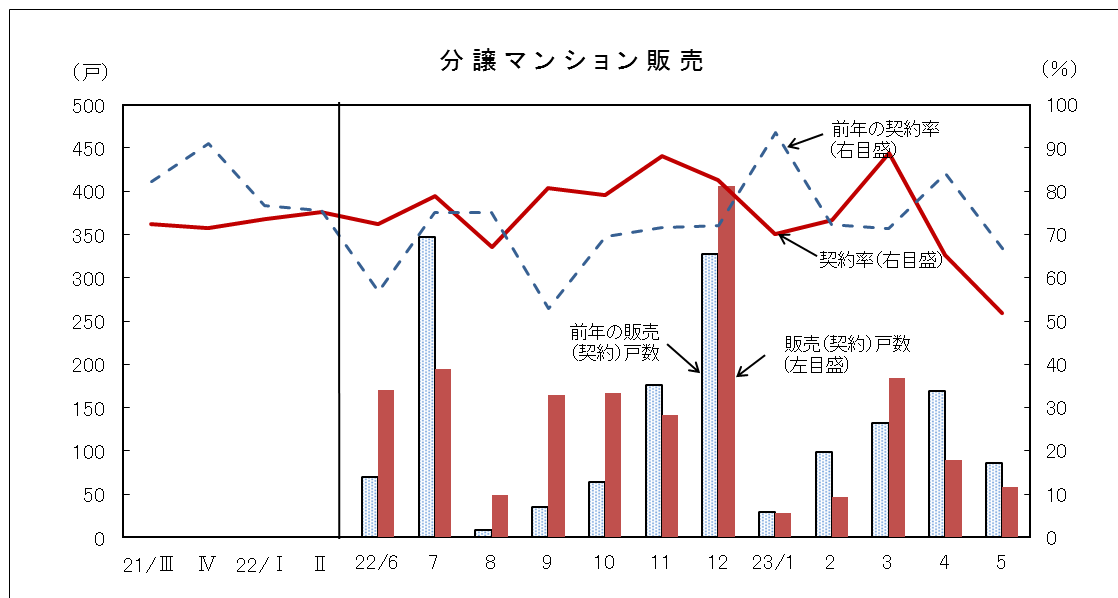
(前年同期(月)比%)

	総数	持家	貸家	分譲住宅	うちマンション
22/7～9	▲10.0	▲14.5	▲10.9	▲3.1	▲1.0
10～12	▲10.2	▲11.0	5.3	▲26.9	▲47.2
23/1～3	9.0	▲2.3	27.5	0.3	6.3
23/3月	▲19.0 (1,171戸)	▲3.4 (317戸)	10.9 (660戸)	▲63.5 (190戸)	▲100.0 (0戸)
4月	▲37.5 (1,016戸)	▲24.0 (282戸)	▲34.7 (465戸)	▲50.9 (265戸)	▲80.4 (63戸)
5月	40.8 (1,674戸)	▲10.1 (310戸)	21.4 (602戸)	130.5 (740戸)	504.6 (526戸)

分譲マンション販売状況については、弱めの動き。

すなわち、販売（契約）戸数の動きをみると、原材料費や工事費、人件費の高騰で分譲価格の上昇の影響により、足元では弱含みで推移している。年明け以降は3月を除くと契約戸数は100戸に届かず、前年を大幅に下回っている。

契約率についても、4月、5月は供給が100戸台にとどまっているにもかかわらず、目安となる70%を下回り、弱い動きが続いている。



分譲マンション販売状況（京都府）

	初月販売（契約）		契約率	
	戸数	前年比（%）	（%）	前年比（%ポイント）
22/7～9	408	4.3	78.0	5.6
10～12	715	26.1	82.9	11.3
23/1～3	259	▲ 0.4	83.3	9.6
23/ 2月	47	▲ 52.5	73.4	1.2
3月	184	39.4	88.9	17.5
4月	90	▲46.7	65.2	▲18.9
5月	58	▲32.6	51.8	▲14.9

(4) 設備投資、IT投資、研究開発費

「第121回京銀クォーターリー・サーベイ（5月調査）」による京都企業の設備投資、IT投資、研究開発費の実数を中規模企業、小規模企業について集計すると、以下の通りである（大規模企業は集計に含めていない）。

設備投資については、2022年度の実績見込み(回答社数182社)は、前年度比+38.9%と3年ぶりの増額となった。製造業(同+36.9%)は3年ぶり、非製造業(同+43.9%)は2年ぶりの増額となった。

2023年度計画(回答社数166社)については、前年度比+13.9%と2年連続の増額計画となっている。製造業(同+1.5%)、非製造業(同+38.2%)ともに2年連続の増額計画となっている。

		(前年度比増減率:%)			
《設備投資の動き》		2021年度実績	2022年度実績見込み	2023年度計画	
全	産 業 (182 社)	▲ 42.7	+38.9	+13.9	166 社
	製 造 業 (100 社)	▲ 34.7	+36.9	+1.5	90 社
	非 製 造 業 (82 社)	▲ 59.2	+43.9	+38.2	76 社
	中 規 模 企 業 (52 社)	▲ 43.4	+63.1	+17.6	49 社
	小 規 模 企 業 (130 社)	▲ 40.9	▲ 11.8	+0.1	117 社
(参考)					
	(大規模企業) (7 社)	+40.9	+0.3	+40.7	5 社

IT投資については、2022年度の実績見込み(回答社数162社)は、前年度比▲6.8%の減額となった。製造業(同+44.3%)は増額となった一方、非製造業(同▲56.3%)は減額となった。

2023年度計画(回答社数146社)については、前年度比+17.0%と増額を計画している。製造業(同+5.3%)、非製造業(同+69.2%)ともに増額計画となっている。

		(前年度比増減率:%)			
《IT投資の動き》		2021年度実績	2022年度実績見込み	2023年度計画	
全	産 業 (162 社)	▲ 16.9	▲ 6.8	+17.0	146 社
	製 造 業 (84 社)	▲ 25.9	+44.3	+5.3	76 社
	非 製 造 業 (78 社)	+24.3	▲ 56.3	+69.2	70 社
	中 規 模 企 業 (46 社)	▲ 11.8	+41.3	+19.0	44 社
	小 規 模 企 業 (116 社)	▲ 33.6	▲ 64.3	+10.1	102 社
(参考)					
	(大規模企業) (5 社)	+5.1	+55.0	+16.1	4 社

研究開発費については、2022年度の実績見込み(回答社数156社)は、前年度比+6.6%の増額となった。製造業(同+6.4%)、非製造業(同+17.6%)ともに増額となった。

2023年度計画(回答社数138社)については、前年度比+4.6%と増額を計画している。製造業(同+4.1%)、非製造業(同+88.9%)ともに増額計画となっている。

		(前年度比増減率:%)			
《研究開発費の動き》		2021年度実績	2022年度実績見込み	2023年度計画	
全	産 業 (156 社)	+2.2	+6.6	+4.6	138 社
	製 造 業 (82 社)	+1.9	+6.4	+4.1	74 社
	非 製 造 業 (74 社)	+27.3	+17.6	+88.9	64 社
	中 規 模 企 業 (46 社)	+2.3	+6.0	+3.8	40 社
	小 規 模 企 業 (110 社)	▲ 2.2	+21.3	+17.6	98 社
(参考)					
	(大規模企業) (6 社)	+29.2	+8.3	+17.7	4 社

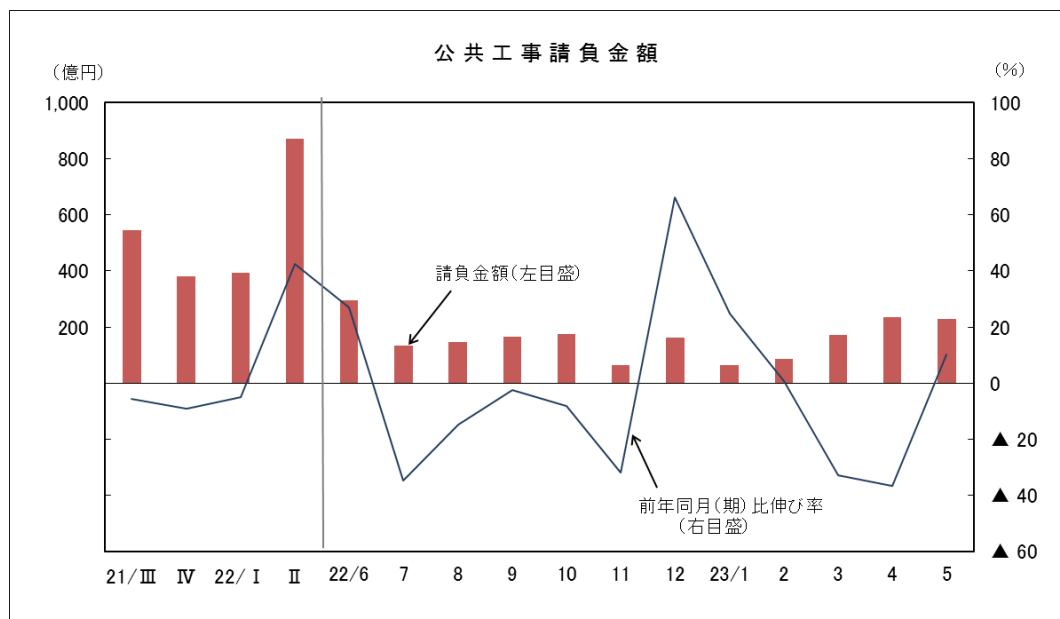
(5) 公共投資

～引き続き、底堅く推移している～

公共工事請負額は、新名神高速道路の整備に関する工事等が進み、堅調に推移している。

すなわち、3月は4か月ぶりに前年割れに転じたものの、水準としては底堅く、続く4月、5月も200億円を上回る水準で、底堅く推移している。

なお、発注者別の動向(23/4月～23/5月までの2ヵ月間)で見ると、京都府、その他市町村からの請負額は前年を上回ったものの、国、独立行政法人、京都市からの請負額は前年を下回り、全体では前年同期比▲19.7%減となっている。



<公共工事請負額(京都府)>

	22/7～9	10～12	23/1～3	23/2月	3月	4月	5月
請負額(億円)	445	400	323	85	173	234	228
前年同期比(%)	▲18.4	4.8	▲18.1	0.6	▲32.9	▲36.6	10.3

<発注者別工事請負額の対前年(同期)比増減>

(%)

	国	独立行政法人	京都府	京都市	その他市町村	合計
21年度 (21/4～22/3)	▲1.9	▲69.1	▲7.2	▲8.0	▲15.8	▲28.9
22年度 (22/4～23/3)	▲25.8	25.1	▲14.5	15.2	▲4.6	5.5
23年度 (23/4～23/5)	▲33.6	▲33.1	40.5	▲43.8	52.1	▲19.7

直近3ヵ月の大型請負額

23/5 新名神高速道路富野高架橋工事	48億5,100万円
23/5 鳥羽第3導水きょ公共下水道工事	27億4,300万円
23/5 令和4・5年度継続施行 学校給食センター新築等工事	24億7,000万円

(出典：西日本建設業保証 京都支店より当行加工)

2. その他の動向

(1) 雇用・所得情勢

～有効求人倍率は1倍台で横ばい、所得環境は改善の動きが鈍化～

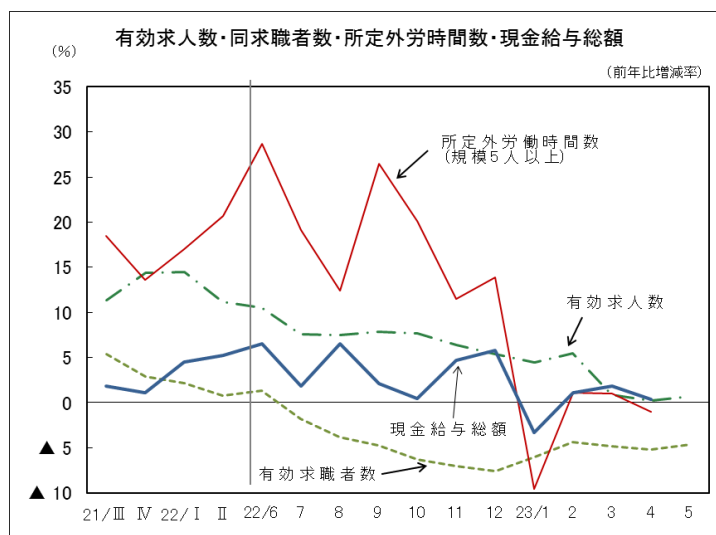
最近の雇用関連指標から京都の雇用・所得情勢をみると、経済活動の正常化が進む中で、サービスなど非製造業を中心に求人数が増加している。ただ、求職者数は減少傾向で推移しているものの、依然として高水準にある。所定外労働時間と現金給与総額も改善の動きが鈍化している。

すなわち、**有効求人**数は、2021年5月以降25ヵ月連続で前年を上回り、堅調に推移している。一方、**有効求職者**数は、2022年7月から11ヵ月連続で前年を下回っているが、依然として高水準にある。この結果、**有効求人倍率(季調値)**は、27ヵ月連続1倍台でこのところはほぼ横ばいに推移している。

なお、**現金給与総額(事業所規模5人以上)**については1月に13ヵ月ぶりに前年割れになったものの、続く2月以降は再び前年比プラス基調で推移している。

一方、**所定外労働時間数(同5人以上)**も、1月に21ヵ月ぶりに前年割れに転じたのち、2月、3月は前年を上回ったものの、直近4月は3ヵ月ぶりに前年を下回っている。

以上のように、雇用・所得情勢は政策の下支えもあって改善が進んでいるものの、求職者数の水準は依然高く、先行きへの懸念は残っている。また、経済活動の活発化に伴い、一部業種では、人手不足感が増している。



<雇用関連指標の推移(京都府)>

(求人倍率以外は前年同期(月)比増減率=%)

	新規求人倍率	有効求人倍率	有効求人人数	有効求職者数	現金給与総額	所定外労働時間数
22/7～9	2.43	1.22	7.7	▲ 3.5	3.5	19.3
10～12	2.49	1.26	6.5	▲ 7.0	3.7	15.2
23/1～3	2.45	1.23	3.6	▲ 5.1	▲ 0.1	▲ 2.5
23/2月	2.43	1.24	5.5	▲ 4.4	1.1	1.1
3月	2.17	1.21	0.9	▲ 4.8	1.8	1.0
4月	2.75	1.21	0.2	▲ 5.2	0.4	▲ 1.0
5月	2.35	1.23	0.7	▲ 4.6	…	…

(2) 企業倒産

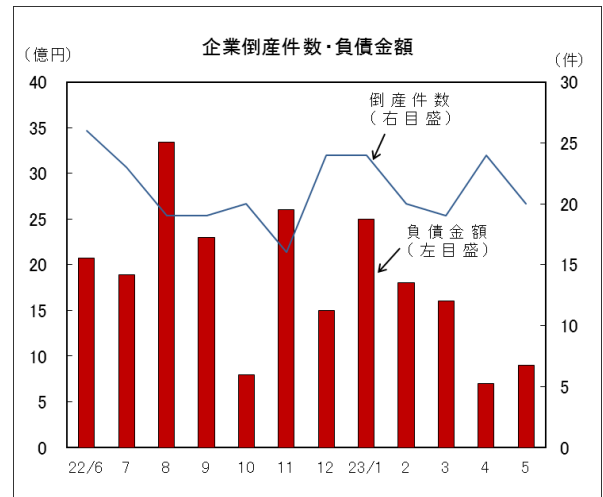
～件数・負債金額ともに、昨年度から増加基調の中、直近は減少傾向にある～

京都府内の企業倒産（負債総額1千万円以上）は、件数・金額ともに直近は減少傾向にある。

すなわち、倒産件数は、2022年4月以降は増加基調で推移している中、4月以降は2ヵ月連続で前年を下回ったものの20件以上の倒産が発生した。一方、負債額については、4月以降2ヵ連続前年割れで10億円を下回り、2023年に入ってから1社あたり10億円を超える大口倒産も無く、小口傾向が続いている。

業種別では、2023年（1～5月）の累計では、小売業や飲食・サービス業が49件と、全体（107件）の約5割（45.8%）を占め、次いで製造業19件（17.8%）、建設業15件（14.0%）、卸売業14件（13.1%）となっている。

2022年度の累計で見ると、倒産件数は5年ぶりに前年を上回り（+35.8%）、小規模倒産が中心。今後、実質無利子無担保融資（ゼロ・ゼロ融資）返済の本格化に加えて、物価高や人手不足感の高まり等により、企業倒産の増勢傾向がさらに強くなるのか、動向が注視される。



<企業倒産の推移>

	件数		負債額 (億円)	
		前年同期(月)比%		前年同期(月)比%
22/4～6	74	60.9	1 (0)	75.3
7～9	61	8.9	2 (0)	132.6
10～12	60	30.4	1 (0)	175.8
23/1～3	63	50.0	0 (0)	▲51.3
23/3月	19	11.8	0 (0)	74.2
4月	24	▲4.0	0 (0)	▲82.0
5月	20	▲13.0	0 (0)	▲18.8

Ⅲ. 産業動向

1. 企業の生産活動等

～業種によるばらつきがあるが、全体としては基調は持ち直し～

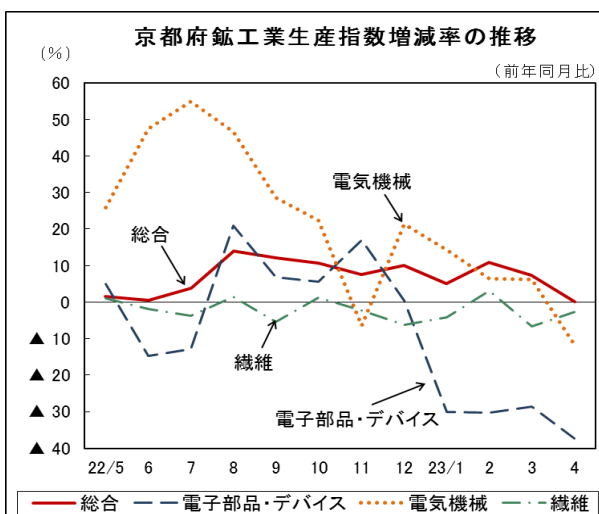
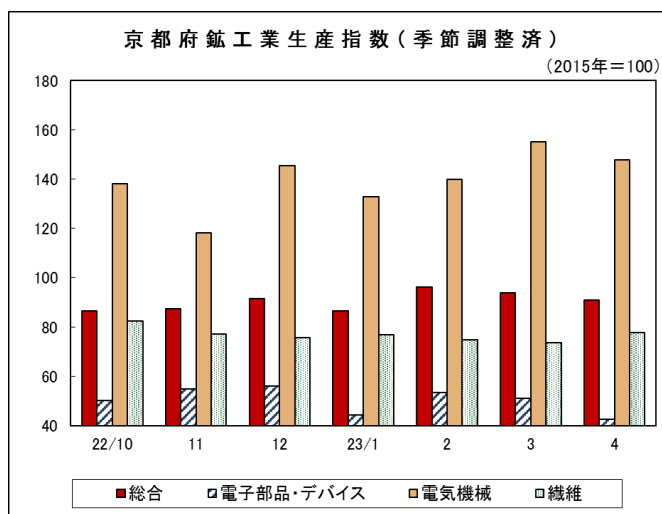
京都府の「鉱工業生産指数」の動きをみると、総合指数（季節調整値 2015=100）は、15 ヶ月連続前年比プラスとなり、原材料価格の高騰や供給制約の長期化などの影響を受けてはいるものの、全体としては持ち直し基調。

<京都府鉱工業生産指数の前年比伸び率> (%)

	22/ 7～9	10～12	23/1～3	23/1 月	2 月	3 月	4 月
総合	(88.2) 9.7	(88.4) 9.3	(92.1) 7.8	(86.4) 5.1	(96.1) 10.8	(93.9) 7.1	(91.0) 0.1
うち生産用機械工業	37.4	25.1	31.2	28.5	65.4	7.6	▲10.5
うち業務用機械工業	▲2.2	22.3	24.3	41.7	31.0	9.2	8.9
うち電子部品・デバイス	4.5	7.6	▲29.6	▲30.0	▲30.2	▲28.6	▲37.4
うち電気機械工業	42.0	11.3	8.8	14.3	6.5	6.2	▲11.6
うち繊維工業	▲2.7	▲2.4	▲2.8	▲4.2	3.0	▲6.6	▲2.8

※総合の上段（）内は季節調整済指数（2015年=100）

- ・**機械工業**では、電子部品・デバイスが、海外景気の減速等により昨年7月からは50前後で推移で弱めの動きは続いている。生産用機械は、前年比プラス基調で推移しており、直近4月は11 ヶ月ぶりに前年を下回ったものの、水準も好調で回復している。業務用機械についても、昨年11月以降は130前後の水準で好調に推移している。電気機械は、やや回復のペースは鈍化したものの、前年比プラス基調で回復が続いている。
- ・**機械工業以外**では、食料品・たばこ（4月；82.9）、プラスチック製品（同104.0）や化学（同116.0）は堅調に推移している。
- ・一方、**繊維工業**は、前年比マイナス基調が続いており、依然として低水準で推移している。



(1) 機械等関連業界

機械関連大手主要メーカーの生産活動を概観すれば、————

日本銀行京都支店によれば、まず、「電子部品・デバイスは、自動車向けが堅調に推移しているものの、スマートフォン向けやパソコン向けを中心に、全体として弱めの動きとなっている。」としている。

一方、汎用・生産用・業務用機械では「緩やかに増加している」とし、全体的に「海外経済減速の影響等から、振れを伴いつつ横ばい圏内の動きとなっている」としている。

(以上、日本銀行京都支店 2023 年 6 月 9 日発表「管内金融経済概況」より)

(2) 和装繊維業界

和装繊維関連業界は、減産調整が続く中、一進一退で推移しているが、依然として低調な動きが続いている。

丹後産地（ちりめん）は、一進一退で推移しており、水準としてはコロナ前の 2019 年比 3~4 割減が続いている。

一方、西陣産地（帯地）は、出荷数量ベースで 1 月に 9 か月ぶりに前年を上回ったものの、続く 2 月以降は再び前年割れに転じ、水準は低調で厳しさが増している。

<和装繊維関連・各生産量・出荷高・売上高> (前年同月(期)比増減；%)

	丹後産地 ちりめん生産量	西陣帯地	
		出荷数量	出荷金額
22/7~9	5.8	▲ 8.2	4.2
10~12	▲ 2.0	▲16.1	▲ 6.4
23/1~3	▲ 3.4	▲ 0.4	▲ 5.4
23/2 月	1.1	▲ 6.4	▲ 7.1
3 月	▲ 3.3	▲ 2.5	▲ 9.0
4 月	▲10.8	▲10.8	▲ 9.4
5 月	6.1

2. 京都の企業経営者の景況感

全産業DIは、13ポイントの大幅改善で、2四半期ぶりにマイナス幅を縮小。
製造業は3四半期ぶりの改善、非製造業は2四半期ぶりに改善となり、
京都経済全体ではコロナ禍前の水準まで持ち直した。

当行が四半期ごとに実施している京都の企業経営者の景況判断調査(京銀クォーターリー・サーベイ '23年5月調査)の結果をみると、以下の通りである。

- 業況判断DI値は、前回2月調査(▲22)から13ポイントと大幅改善の▲9となった。19四半期連続のマイナス(「悪い」超)水準となり、足元では2四半期ぶりに改善している。製造業が13ポイントの大幅改善(3四半期ぶり改善)、非製造業では12ポイントの大幅改善(2四半期ぶり改善)となった。
- 業種別にみると、製造業(▲29→▲16)は13ポイントの大幅改善で、3四半期ぶりの改善となった。個別業種をみると、窯業・土石(±0→▲50)で中立水準からマイナス水準に転じた一方、その他製造(▲18→+8)でマイナス水準からプラス水準に転じ、化学(▲44→▲14)、その他繊維(▲53→▲30)、食料品(▲27→▲4)などでマイナス幅が縮小した。機械業種(▲25→▲15)は、5四半期ぶりに大幅に改善した。電気機械(+4→+4)は横ばいで推移した一方、一般機械(▲35→▲19)、輸送機械(▲50→▲29)、精密機械(▲46→▲36)はマイナス幅が大幅に縮小した。
非製造業(▲15→▲3)は12ポイントの大幅改善で、2四半期ぶりに改善となった。個別業種をみると、機械器具卸(+45→+10)でプラス幅が縮小した一方、その他繊維卸(▲22→+22)、その他卸(▲26→+3)でマイナス水準からプラス水準に転じ、和装繊維卸(▲83→▲40)、食料品卸(▲43→▲17)はマイナス幅が縮小した。
- 項目別DIでは、受注・需要(▲21→▲11)が大幅に回復したことで、売上高(▲24→▲10)、企業収益(▲27→▲16)ともに大幅改善となった。仕入価格(+74→+69)が高水準で推移している一方で、価格転嫁の動きは十分とはいえず、販売価格(+29→+31)の一段の上昇は重い展開が続いている。

雇用(▲30→▲30)では、全体では11四半期連続マイナス(「不足」超)水準と人手不足が続いており、非製造業(▲35→▲32)はマイナス幅が縮小した一方、製造業(▲25→▲28)はマイナス幅が拡大した。

金融機関借入(▲1→▲4)はマイナス(「減少」超)水準が続き、資金繰り(+6→+11)は11四半期連続プラス(「余裕」超)水準で落ち着いている。

- 先行き(3か月後)については、全産業ベースで▲10と1ポイントの悪化を予想している。

◎業況判断DI(「良い」と答えた企業の割合－「悪い」と答えた企業の割合)

	(社数)	2022年		2023年		
		8月	11月	2月	5月 (前回予想)	8月(予想)
全産業	360	▲18	▲13	▲22	▲9 (▲18)	▲10
製造業	186	▲17	▲20	▲29	▲16 (▲22)	▲17
非製造業	174	▲19	▲7	▲15	▲3 (▲15)	▲3
大規模企業	9	▲29	▲20	▲50	▲33 (▲30)	▲22
中規模企業	86	▲10	▲5	▲17	▲10 (▲21)	▲16
小規模企業	265	▲20	▲16	▲22	▲8 (▲17)	▲8

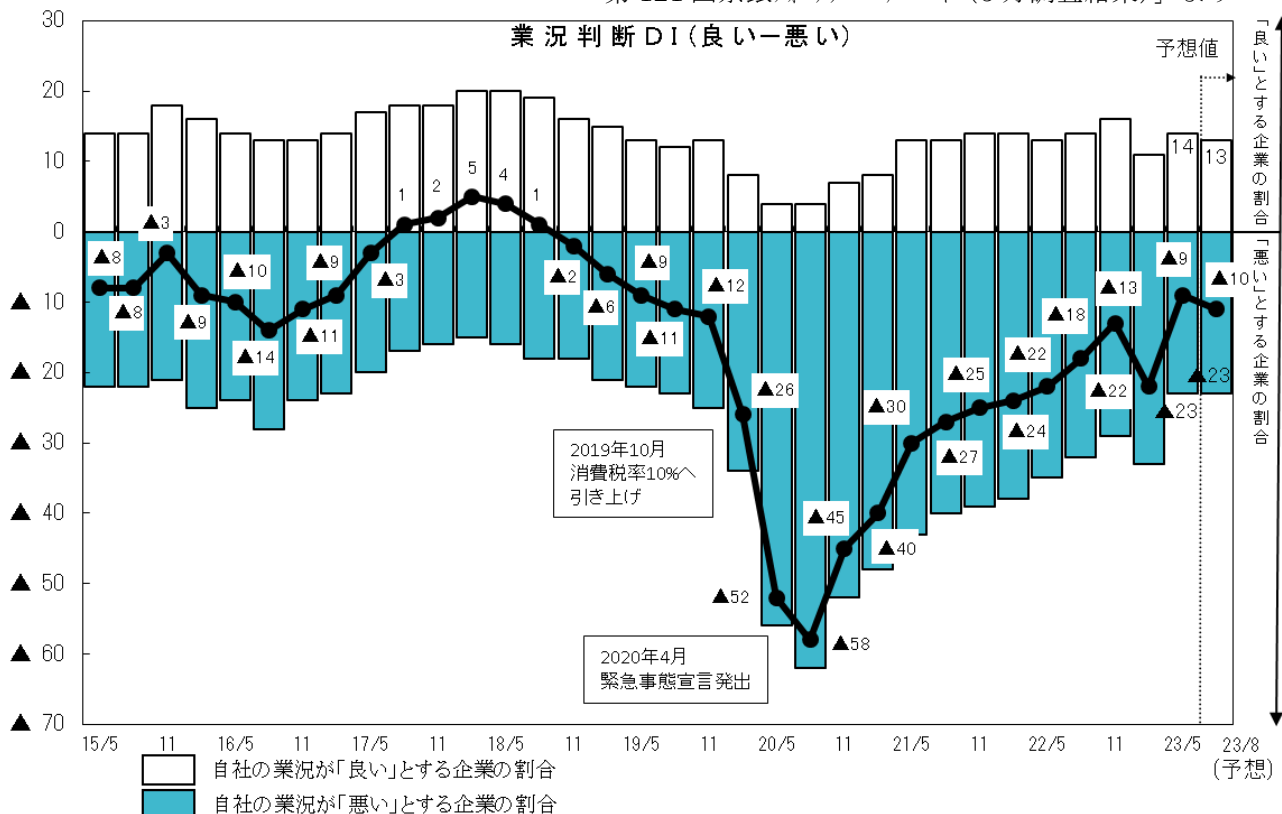
○ 以上のように、製造業、非製造業ともに大幅な業況改善が見られた。インバウンドの回復や新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い人流が回復する中、観光関連などは堅調に推移したほか、製造業も機械業種中心に回復した。

足元で経済活動の正常化が進む一方で、世界経済の減速が懸念され、人員不足や賃金動向を含めた雇用問題、更なる価格転嫁など課題は多く、京都経済の先行きは不透明な状況が続いている。

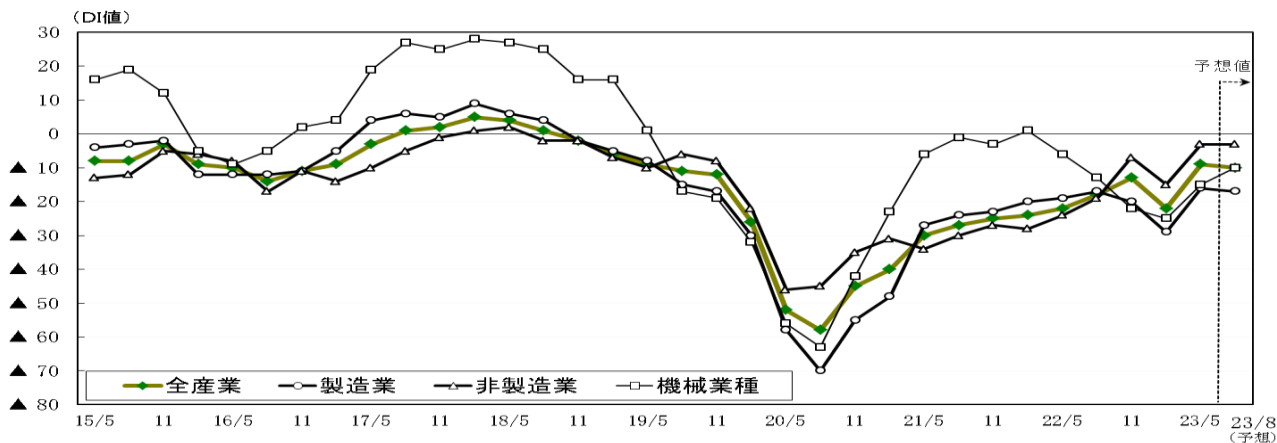
京都企業の業況判断DI推移

(「良い」企業の割合 — 「悪い」企業の割合)

「第121回京銀クォーター・サーベイ(5月調査結果)」より



業況判断DIの推移(業種別)



3. 京都企業における売上高、および経常利益の推移（実数調査結果）

「第121回京銀クォーターリー・サーベイ（5月調査）」による京都企業の売上高、経常利益の実数を中規模企業、小規模企業について集計すると、以下の通りである。（大規模企業は集計に含めていない。）

まず、**売上高**については、2022年度の実績見込み（回答社数251社）は、前年度比+7.9%と2年連続の増収となった。製造業（同+8.8%）、非製造業（同+7.4%）ともに2年連続の増収となった。

2023年度計画（回答社数215社）については、前年度比+2.4%と3年連続の増収を計画している。製造業（同+2.7%）、非製造業（同+2.3%）ともに3年連続の増収計画となっている。

一方、**経常利益**では、2022年度の実績見込み（回答社数235社）は、前年度比+11.2%と3年連続の増益となった。製造業（同+5.0%）は3年連続、非製造業（同+20.7%）は2年連続の増益となった。

2023年度計画（回答社数200社）については、前年度比▲0.5%と4年ぶりの減益を計画している。製造業（同+13.4%）は4年連続の増益計画となっている一方、非製造業（同▲14.9%）は3年ぶりの減益計画となっている。

（前年度比増減率：%）

《売上高の動き》

	2021年度実績	2022年度 実績見込み	2023年度計画	
全 産 業（251社）	+8.0	+7.9	+2.4	215社
製 造 業（132社）	+5.4	+8.8	+2.7	111社
非 製 造 業（119社）	+9.6	+7.4	+2.3	104社
中 規 模 企 業（67社）	+10.0	+8.5	+2.5	58社
小 規 模 企 業（184社）	+3.0	+6.2	+2.0	157社
（参考）				
（大規模企業）（9社）	+13.6	▲0.4	+2.9	6社

（前年度比増減率：%）

《経常利益の動き》

	2021年度実績	2022年度 実績見込み	2023年度計画	
全 産 業（235社）	+36.0	+11.2	▲0.5	200社
製 造 業（125社）	+40.8	+5.0	+13.4	102社
非 製 造 業（110社）	+29.8	+20.7	▲14.9	98社
中 規 模 企 業（61社）	+39.6	+6.2	+2.7	56社
小 規 模 企 業（174社）	+25.9	+27.4	▲9.4	144社
（参考）				
（大規模企業）（9社）	+74.8	▲17.7	+5.8	6社

IV. 京都の主要経済指標

項目 年 期 月	個 人 消 費 関 連							
	百貨店売上高 (京都市内4百貨店)		スーパー売上高 (京都府内73か店)		コンビニエンスストア 売上高(府内1,055店)		家電大型専門店売上高 (京都府内54か店)	
	(百万円)	前年比 %	(百万円)	前年比 %	(百万円)	前年比 %	(百万円)	前年比 %
2013	241,491	▲ 0.1	258,693	▲ 1.5
14	243,390	0.8	263,602	0.8	98,742	...
15	237,270	1.1	265,217	▲ 1.9	95,162	▲ 3.6
16	232,279	▲ 2.1	257,809	▲ 0.6	208,489	...	90,816	▲ 4.6
17	238,591	2.7	252,679	▲ 0.0	213,264	2.3	93,935	3.4
18	237,990	▲ 0.3	249,038	▲ 0.9	218,364	2.4	94,609	0.7
19	242,265	1.8	242,774	▲ 1.5	224,602	2.9	95,935	1.4
20	175,620	▲ 27.5	246,633	▲ 1.9	208,320	▲ 7.2	93,983	▲ 2.0
21	186,651	6.3	248,042	▲ 1.2	211,605	1.7	95,547	1.7
22	217,215	16.4	252,507	1.5	220,406	4.2	97,171	1.7
21/10~12	61,778	7.7	63,942	▲ 1.3	57,764	5.0	24,808	0.9
22/1~3	47,779	7.0	61,844	0.5	51,264	5.1	25,467	5.7
4~6	50,908	36.6	62,022	1.6	54,807	7.5	22,409	0.6
7~9	50,743	18.1	62,263	0.1	56,645	4.8	24,043	▲ 1.3
10~12	67,785	9.7	66,378	3.7	57,690	▲ 0.1	25,252	1.8
23/1~3	56,934	19.2	62,697	1.1	54,123	5.6	24,785	▲ 2.7
22/6	17,687	14.0	20,556	1.5	18,162	6.2	7,845	▲ 3.3
7	18,605	8.3	20,923	0.5	19,381	4.8	8,563	▲ 10.1
8	15,147	23.6	21,332	▲ 0.3	19,002	6.0	7,467	1.1
9	16,991	25.6	20,008	0.2	18,262	3.5	8,013	7.4
10	18,918	13.5	20,913	2.8	18,981	7.2	7,464	4.4
11	21,060	6.4	21,209	3.6	18,789	6.7	7,466	▲ 0.6
12	27,807	9.9	24,256	4.6	19,920	▲ 11.2	10,322	1.7
23/1	19,140	18.5	22,465	2.1	18,035	1.1	8,510	▲ 0.7
2	16,563	23.4	19,620	0.5	16,645	7.9	7,322	2.0
3	21,230	16.6	20,612	0.7	19,443	8.0	8,953	▲ 7.8
4	18,844	18.2	21,864	5.6	19,254	4.3	7,258	▲ 0.0
5	19,148	10.8	21,454	3.9	19,598	7.8	6,953	▲ 4.6

(注)百貨店、及びスーパー売上高の前年比増減率は既存店ベース(金額は全店ベース)。

2010年9月以降は5百貨店7店舗、2014年10月以降は4百貨店6店舗。

2014年8月以降は経済産業省発表値。2019年4月以降は4百貨店5店舗。

コンビニエンスストア売上高、家電大型専門店売上高は金額、前年比増減率ともに全店ベース。

項目 年 期 月	個人消費関連					新設住宅 着工戸数		公共工事 請負額	
	乗用車(除軽) 販売台数		観光関連(京都市内16ホテル)			戸数(戸)	前年比%	(億 円)	前年比%
	(台)	前年比%	客室稼働率		宿泊者数				
			(%)	前年比 %ポイント	前年比%				
2013	52,713	▲ 4.2	85.1	1.5	3.2	18,812	22.1	2,132	10.2
14	53,103	0.7	86.3	1.2	3.9	17,600	▲ 6.4	2,269	6.4
15	51,824	▲ 2.4	87.2	0.9	3.7	17,644	0.3	1,848	▲ 18.6
16	52,674	1.6	87.1	▲ 0.1	1.3	17,017	▲ 3.6	2,075	12.3
17	55,518	5.4	88.3	1.2	7.1	14,790	▲ 13.1	1,766	▲ 14.9
18	55,083	▲ 0.8	86.2	▲ 2.1	▲ 1.6	14,704	▲ 0.6	1,991	12.7
19	54,156	▲ 1.7	85.4	▲ 0.8	▲ 6.6	15,600	6.1	2,124	6.7
20	47,939	▲ 11.5	34.4	▲ 51.1	▲ 62.5	15,592	▲ 0.1	2,645	24.5
21	46,214	▲ 3.6	26.0	▲ 8.4	▲ 24.7	16,286	4.5	1,955	▲ 26.1
22	42,619	▲ 7.8	48.4	22.4	98.5	15,416	▲ 5.3	2,111	8.0
21/10~12	10,119	▲ 18.8	48.6	▲ 1.0	0.8	3,841	▲ 11.4	382	▲ 9.0
22/1~3	12,492	▲ 15.5	28.2	10.3	73.3	3,582	9.7	394	▲ 5.1
4~6	8,743	▲ 17.4	44.8	31.8	282.3	4,203	▲ 7.3	871	42.5
7~9	10,567	▲ 1.4	45.7	23.1	120.9	4,183	▲ 10.0	445	▲ 18.4
10~12	10,817	6.9	73.3	24.7	55.7	3,448	▲ 10.2	400	4.8
23/1~3	14,678	17.5	58.7	30.5	119.6	3,906	9.0	323	▲ 18.1
22/6	3,147	▲ 16.4	48.1	34.4	292.3	1,389	▲ 0.6	295	27.0
7	3,626	▲ 9.0	42.0	17.5	81.6	1,392	▲ 17.2	133	▲ 34.7
8	2,809	▲ 17.3	44.1	22.7	125.1	1,522	19.7	146	▲ 14.9
9	4,132	23.8	51.1	29.3	166.8	1,269	▲ 25.1	166	▲ 2.6
10	3,559	20.5	65.7	30.2	97.1	1,339	▲ 2.0	174	▲ 8.3
11	3,730	4.2	81.7	24.5	46.6	1,067	▲ 8.6	64	▲ 31.9
12	3,528	▲ 1.6	72.6	19.3	40.2	1,042	▲ 20.3	161	66.1
23/1	4,097	13.1	46.5	18.8	79.0	1,499	33.0	64	24.7
2	4,493	29.6	53.9	32.0	166.7	1,236	22.5	85	0.6
3	6,088	12.7	76.4	41.6	125.2	1,171	▲ 19.0	173	▲ 32.9
4	4,021	35.3	75.4	36.2	115.1	1,016	▲ 37.5	234	▲ 36.6
5	3,762	43.4	73.0	25.9	61.0	1,674	40.8	228	10.3

(注) ホテル稼働率・宿泊者数は、2013年1月以降は13ホテルベース。
2013年5月以降は14ホテルベース。2014年4月以降は15ホテルベース。
2015年1月以降は14ホテルベース。2016年2月以降は13ホテルベース(1ホテル改装のため休業)。
2016年9月以降は14ホテルベース。2021年5月以降は16ホテルベース。

項目 年 期 月	雇 用 関 連		企 業 倒 産			鉱 工 業 生 産 指 数 (季 節 調 整 済)			
	有 効 求 人 倍 率	現 金 給 与 総 額	件 数 (件)	負 債 額		総 合		(電 気 機 械)	(電 子 部 品・ デ バ イ ス)
				(億 円)	前 年 比 %	2015 年 =100	前 年 比 %		
	(倍)	前 年 比 %							
2013	0.81	…	376	531	20.0	91.4	▲ 8.0	30.4	▲ 49.2
14	0.94	…	306	494	▲ 6.8	98.1	7.3	8.8	22.3
15	1.06	…	230	279	▲ 43.5	100.1	2.0	▲ 22.7	22.4
16	1.20	…	227	417	49.1	98.4	▲ 1.5	▲ 10.7	▲ 25.6
17	1.35	…	240	167	▲ 59.8	96.4	▲ 2.2	9.0	▲ 9.0
18	1.53	…	271	223	33.0	98.0	1.7	▲ 6.6	6.4
19	1.59	…	240	148	▲ 33.3	90.6	▲ 7.7	▲ 6.1	▲ 6.5
20	1.19	…	253	156	4.9	79.9	▲ 11.5	▲ 0.5	19.9
21	1.07	…	200	147	▲ 5.4	82.2	2.8	22.8	▲ 27.4
22	1.19	…	237	317	115.6	86.9	5.8	34.7	0.3
21/10~12	1.08	1.1	46	18	▲ 72.1	80.7	▲ 6.2	38.0	▲ 57.2
22/1~3	1.12	4.5	42	121	115.2	85.1	1.1	42.4	▲ 11.5
4~6	1.18	5.2	74	71	75.3	85.9	3.0	51.5	3.9
7~9	1.22	3.5	61	76	132.6	88.2	9.7	42.0	4.5
10~12	1.25	3.7	60	50	175.8	88.4	9.3	11.3	7.6
23/1~3	1.23	▲ 0.1	63	59	▲ 51.3	92.1	7.8	8.8	▲ 29.6
22/6	1.20	6.5	26	21	18.5	85.1	0.6	47.3	▲ 14.7
7	1.21	1.8	23	19	148.2	85.6	3.9	55.0	▲ 12.9
8	1.23	6.5	19	33	222.3	88.9	13.9	46.6	21.0
9	1.23	2.1	19	23	60.6	90.0	12.0	28.5	6.8
10	1.25	0.5	20	8	193.7	86.5	10.6	22.3	5.5
11	1.26	4.7	16	26	314.1	87.3	7.5	▲ 6.5	17.0
12	1.26	5.8	24	15	71.1	91.5	10.0	21.3	0.4
23/1	1.25	▲ 3.3	24	25	57.0	86.4	5.1	14.3	▲ 30.0
2	1.24	1.1	20	18	▲ 81.5	96.1	10.8	6.5	▲ 30.2
3	1.21	1.8	19	16	74.2	93.9	7.1	6.2	▲ 28.6
4	1.21	0.4	24	7	▲ 82.0	91.0	0.1	▲ 11.6	▲ 37.4
5	1.23	…	20	9	▲ 18.8	…	…	…	…

(注) 現金給与総額は事業所規模5人以上ベース。

項目 年 期 月	丹後白生地 生 産 高		西 陣 帯 地 出 荷 数 量 ・ 金 額			
	<数量ベース>		<数量ベース>		<金額ベース>	
	(千反)	前 年 比 %	(千本)	前 年 比 %	(百万円)	前 年 比 %
2013	433	▲ 4.0	636	▲ 1.4	16,264	2.9
14	400	▲ 7.6	601	▲ 5.6	15,922	▲ 2.1
15	351	▲ 12.2	526	▲ 12.4	14,013	▲ 12.0
16	310	▲ 11.7	488	▲ 7.3	13,254	▲ 5.4
17	294	▲ 5.1	478	▲ 2.2	13,128	▲ 1.0
18	282	▲ 4.2	427	▲ 10.6	12,230	▲ 6.8
19	253	▲ 10.2	380	▲ 11.0	11,108	▲ 9.2
20	154	▲ 39.1	260	▲ 31.5	8,100	▲ 27.1
21	154	▲ 0.5	304	16.6	8,266	2.1
22	159	3.5	282	▲ 5.6	8,008	▲ 3.4
21/10~12	43	29.3	82	12.7	2,256	▲ 4.7
22/1~3	36	6.8	69	1.2	1,913	▲ 7.6
4~6	41	4.5	75	▲ 5.2	2,123	1.0
7~9	40	5.8	67	▲ 8.2	1,901	4.2
10~12	42	▲ 2.0	69	▲ 16.1	2,111	▲ 6.4
23/1~3	34	▲ 3.4	68	▲ 0.4	1,816	▲ 5.1
22/6	15	10.9	26	▲ 9.6	735	▲ 6.0
7	15	▲ 0.9	22	▲ 8.7	617	17.8
8	12	18.9	21	▲ 13.7	590	▲ 10.3
9	14	3.3	24	▲ 1.7	694	8.6
10	15	▲ 1.7	23	▲ 11.1	669	▲ 8.1
11	14	1.3	24	▲ 10.5	744	5.4
12	14	▲ 5.5	22	▲ 8.6	697	▲ 18.2
23/1	9	▲ 9.1	25	10.5	616	4.1
2	13	1.1	20	▲ 6.4	561	▲ 7.1
3	12	▲ 3.3	24	▲ 2.5	653	▲ 9.0
4	13	▲ 10.8	23	▲ 10.8	670	▲ 9.4
5	11	6.1